

35. 広島県に於ける高血圧について

広島女子短大

益田美佐子

1. 近時全国的に脳卒中は死亡率の主位を占め漸次増加の傾向にある。脳卒中の主因は高血圧であるがこの高血圧（本態性）の原因としては、今では気候の寒冷，労働の過重，米，塩の過食等が挙げられているが，実際にはなかなか複雑な問題で簡単には結論付けの出来ない状態である。広島県は脳卒中の死亡率が全国的に見て低い地区となっているが，県北庄原地区に於ける同死亡率は全国で最高の秋田県，宮城県等に匹敵して驚くべき高率を示している事は注目されなければならない事実である。ここには栄養状態の欠陥，その他の原因が当然考え

られるので当該地区の高血圧患者の生活実態を調査し、県下で最も低率の竹原市の実態調査結果と比較検討しその原因への示唆を得て、対策の一助に資せんとした。

2. 調査方法としては、栄養調査、生活状態調査および広島鉄道病院医師吉富博士並に庄原市、竹原保健所の両所医職員諸氏の御協力を得て、健康調査を実施しその結果を検討した。

3. 調査の結果両地区の栄養摂取状況が明となり、両地区共栄養摂取に不均衡があり特に山間部庄原市地区が沿岸部竹原市地区より著しい事が認められた。ビタミンA, Ca, Fat, の不足, Fe, ビタミンC, NaCl の過剰等がこれである。庄原地区の高血圧高率の原因としてはNaClの過食、労働過重並に特に遺伝的素因が認められた。この調査は続行中でここには予備的報告をした。